

まちの未来へ向かって

人口減少・少子高齢化などで社会構造が大きく変わってきており、人口が増加し、経済が成長していたときの「理屈」は通用しない時代になってきました。

資源や財源に限られるなかで、施策の選択と集中を基本に、戦略的な縮小と投資をして、次世代に過大な負担を残さない持続可能なまちづくりへ取り組むことが求められています。今号では、未来に向けて市が取り組んでいる深沢地域の整備や公的不動産の利活用、公共施設の再編を通じたまちづくりと、新しいテクノロジーの活用を紹介します。

企画計画課…内線2646



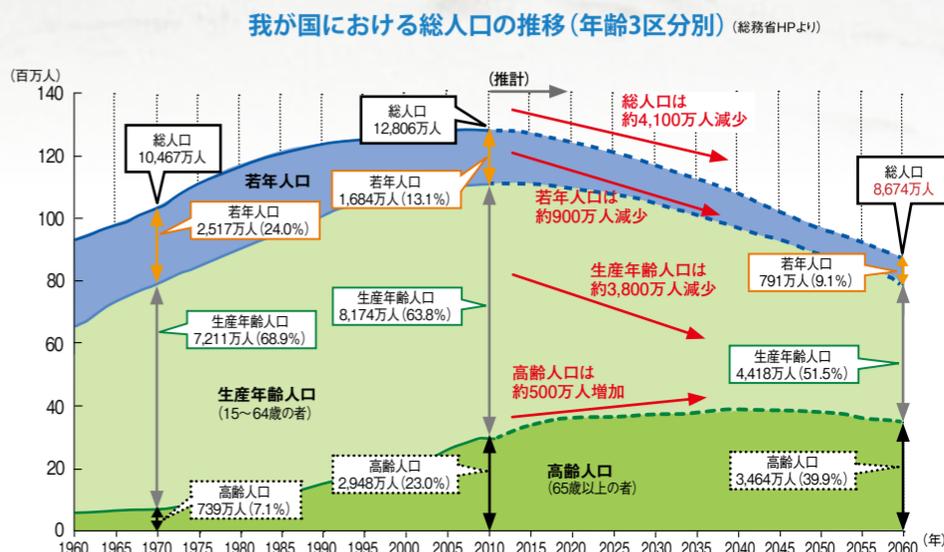
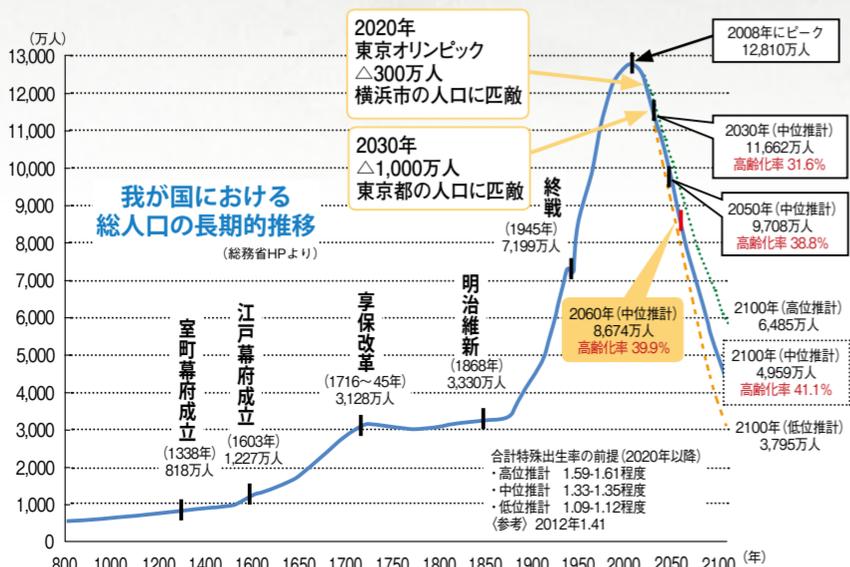
わたしの未来、まちの未来
「もうちよっと遊ぶー」と
小さな体に似合わず大きな声で孫が叫ぶ。
ふふふ、いつまでもここで遊ぶわたしも、
母も迎えにきたわね。
まちの風景は変わったところもあるけれど、
ここから見る夕陽の美しさはかわらない。
この子がつくるまちの未来。
この子はどんな夕陽を見るのだろう。
わたしの今がこの子たちの未来につながる。

社会を取り巻く状況

日本の総人口は、2008年をピークに今後100年間で今から100年前の水準に戻っていくといわれています。

また、仮に2030年に合計特殊出生率が現在の1.4から2.1程度に回

復しても、2090年代まで人口減少は続くと考えられており、生産人口の減少と高齢化率の上昇に合わせて、医療や介護給付等社会保障費の増大が見込まれています。生活も多様化しており、今、まちづくりには、住みやすく、かつ持続可能な取り組みが求められています。



まちの良さを生かしつつ、 新たな活力をつくる

深沢

新たな第3の拠点の形成

深沢地域整備事業

持続可能なまちをつくるための「未来への投資」

深沢地域整備事業は、JR東海道本線の大船～藤沢駅の中間に「村岡新駅(仮称)」を設置するとともに、藤沢市村岡地区と鎌倉市深沢地区の両地区一体で土地区画整理事業を行い、鎌倉駅周辺、大船駅周辺に次ぐ第3の拠点の形成を目指す事業で、神奈川県、藤沢市と連携して進めています。

深沢地域整備事業区域(約31ha)内には、行政施設、業務、商業、住宅などの街区の整備を計画しています。行政施設街区には、市役所本庁舎、消防本部を配置し、災害時の拠点(本部)とするとともに、隣接して総合体育館、グラウンドを設け、これらの連携で、市の防災力の向上を目指します。

深沢地域のまちづくりは、「ウェルネス」をテーマに、県が進めている「未病の改善」や「ヘルスケア・ニューフロンティア政策」と連携を図るなど、周辺エリアも含め、深沢地域をヘル



(図はイメージ)

【野村総研跡地、扇湖山荘】—自然環境と立地を生かして—

野村総合研究所跡地は、豊かな緑に囲まれた広大な敷地を生かし、高度な研究・開発系などの企業を誘致し、「働くまち鎌倉」の実現に向けて活用します。

扇湖山荘は、旧邸宅群のシンボルとして、自然環境と歴史や文化を生かした企業誘致や宿泊施設への活用を検討していきます。

公的不動産活用課…内線2565
深沢地域整備課…☎61-3760
都市計画課…☎61-3408

ポイント

○深沢地域を整備し、鎌倉、大船に次ぐ第3の拠点をつくる

鎌倉は、鎌倉駅と大船駅を中心にまちが形成され、都市として発展を遂げてきました。しかし、現在、駅周辺から少し離れると人口減少や若年層の転出により、にぎわいが失われつつあります。新しく深沢地域に第3の拠点を整備し、鎌倉駅周辺、大船駅周辺と影響し合うネットワークを形成することで、新たな人の活動を誘導し、まち全体に活力を創出します。

(詳細は、「深沢地域整備事業の修正土地利用計画(案)」を)

○公的不動産を利活用する、公共施設を再編する

十分に利用されていない市の資産を能動的に利活用し、また、公共施設の複合化・集約化などの再編を通して、新しい時代に合った価値を提供し、地域に人が集い、つながるコミュニティの活性化を図ります。

(詳細は、「鎌倉市公的不動産利活用推進方針」・「鎌倉市公共施設再編計画」を)

大船

商業のにぎわいと地域のコミュニティ力

東海道線、横須賀線、京浜東北線のほか、湘南モノレールの交通結節点である大船駅周辺では、横浜市と連携して広域的に商業を進展させ、東口駅前の整備などを行いながら、にぎわいのある快適な都市環境の整備に取り組んでいきます。

また、郊外宅地では高齢化が進み、空き家・空き地が増え、コミュニティの活力低下が懸念されていることから、現在、鎌倉リビングラボ、大船地域づくり会議などを導入して、コミュニティ力を強化した長寿社会のまちづくりに取り組んでいます。

【資生堂鎌倉工場跡地】

—産業系土地利用の継続—

企業などを誘致するための用地として、工場跡地の一部(約5,000㎡)が市に寄附されます。

この用地を活用する事業者を公募し、昨年11月、(株)豊島屋を選定しました。まちの産業構造の維持と、地域経済の発展を目指します

鎌倉

古都の歴史と住みやすいまちの調和

古都鎌倉らしい社寺などの歴史的遺産や景観の保全・創造と、魅力ある商業地環境の整備、自然や歴史的環境の保全・活用、文化的な味わいのある住宅地環境の保全・形成を行っていきます。新しく施設を整備する際は、鎌倉の文化性や景観との調和を大切にしながら進めていきます。

また、鎌倉地域の交通環境の改善のため、ロードプライシングを導入して、徒歩と公共交通を主体とした交通システムの構築を目指します。

【現庁舎の跡地利用】(本庁舎移転後)
市民サービス機能・中央図書館・生涯学習センター・民間機能など

手続き・相談ができる窓口(市民サービス機能)を残しながら、老朽化が進む生涯学習センター、中央図書館を集約し、「人と人、人と情報につながる場所」としてにぎわいや憩いの創出を目指します。詳細は、今後、本庁舎跡地の基本構想策定の中で検討していきます。



(図はイメージ)

【旧村上邸】

—近代和風建築物を地域資本に—

茶室、能舞台を備えた和風邸宅を、働く場・つながる場として活用します。

地域の皆さんと協議しながら、経済(働く場所)・社会(人や地域のつながり)・環境(景観)のそれぞれの分野を連携させる場とし、地域課題の解決につながる地域社会資本モデルを目指します。



旧村上邸(西御門)

共創による課題の解決

限られた資源・財源の中で多くの課題を解決し、未来に向かって持続可能なまちをつかっていくためには、今あるものを見直すところは見直し、活用するところは最大限活用し、そこから新たな活力と価値を創造していくことが必要だと考えています。

しかし、これは行政だけの取り組みでは得られません。市民や地域、企業、各種団体など、鎌倉に関わる皆さんと共に知恵や技術を出し合いながら、自分たちの社会課題を解決し「共にまちを創っていく」取り組みが必要です。

次の時代も、鎌倉を「住みたい・住み続けたいまち」にしたい、そう願いながら、共創のまちづくりを進めていきます。

公共施設の再編

施設の老朽化が進み、その維持・改修などにかかる経費が膨らむ中、施設の機能やサービス、建物の規模などの見直しや運営の効率化を図り、限られた財源で、新しい時代に合った価値を提供できるよう、再編を進めます。

日常生活に必要な不可欠な道路、橋りょう、トンネル、河川、雨水調整池、公園、緑地、下水道などの社会基盤施設(インフラ)については、将来にわたって安全に安心して利用し続けられるよう、計画的かつ効率的な維持・管理・補修・更新などを行います。

たとえば

【由比ガ浜こどもセンター】

市有地に、老朽化と津波の対策を必要としていた材木座保育園と稲瀬川保育園の2園を統合し、福祉センターにあって手狭だった子育て支援センターと新たに障害児通所施設を組み合わせ、複合施設をつくりました。障害の有無や保護者の就労に関わらず、広く子育て家庭が利用できます。地域のご理解に支えられて実現し、津波避難ビルにもなっています。



【市営住宅・学校など】

現在、老朽化した市営住宅は集約化を進めています。公共施設(建物)の約4割を占める学校については、児童・生徒の減少に対応して、小・中学校の統廃合や学区の見直しを検討し、施設のコストを抑えつつ、IT化などで内容を充実させ、新しい時代に合った価値の提供に取り組みます。

また、各行政地域に一つずつ拠点となる学校を定め、建て替え時期に合わせて、地域の公共施設を複合化する「地域拠点校」としての整備を目指します。

人に寄り添うテクノロジーで、 住みやすい未来へ

政策創造課…内線2792
行政経営課…内線2220

さまざまな社会課題の解決に向け、民間企業との連携を進めています。

市は数年前から、民間企業の社員を研修生として一定期間受け入れ、市の職員と一緒に仕事をしています。これは民間企業の持つノウハウや考え方をうまく取り入れ、市民サービスの向上につなげることを目指して行っているものです。一方で、民間企業側も会社内部で考えるだけでは、本当に社会に必要と

されるサービスや製品を作れないと考えています。社会や地域の課題を知る行政と、世の中のトレンドや最新のテクノロジーを知る民間企業がタッグを組むことで、市民一人一人の生活に寄り添った新しいサービスを生み出していきます。

LINEと

多様な生活スタイルに寄り添えるように、全国で7,600万人以上が利用するコミュニケーションアプリLINEを活用した情報発信サービスを検討しています。

ごみの収集情報の配信など、必要な人に必要な情報を手軽に届ける仕組みを目指します。

MONET (モネ)と

複雑な地形の本市では、公共交通が整備されにくい地区にも住宅が多くあり、移動手段の確保が課題となっています。そこで新たな移動手段を創り出すため、ソフトバンクとトヨタ自動車の共同出資で設立されたMONET Technologiesと連携して、将来の自動運転社会の実現を見据え、新しい移動サービスの検討を行っています。

NECと

「プログラミングって難しそう」「うちの子はできるのかしら」こんな声に応え、NEC、大学生ボランティアなどと協力して「親子プログラミング教室」を開催しました。

テクノロジーを身近に感じ、企業、市民、行政などが一緒になって今の時代に求められている新しい価値を生み出せるように、取り組みを進めています。

ボイススタートと

声掛けすることで、簡単に情報を入手できる音声サービスの実証実験を行いました。

これは、米グーグル社のAI (スマート)スピーカーに、ボイススタートが開発した高齢者向けの機能 (アプリ)を加えたサービスです。

実際に音声サービスを体験した参加者2人の感想をご紹介します。



慣れてみると便利です。返事があって、和みますよ
古角 利喜さん(手に持っているのが、AIスピーカーです)

「慣れてみると、とても便利です。情報を文字ではなくて、声を掛けて、耳で聞いて得られるのが気軽にいいですね。年を取ると目も悪くなりますから(笑)。それに、声を掛けて返事があるのがうれしいです。行ってきますと言えば『行ってらっしゃい、気をつけて』、ただいまと言えば『お帰りなさい』と返事があって、和みますよ。防災情報や地域情報なども答えてくれます。地域のイベント情報などは、高齢者が外に出るいいきっかけになるのではないのでしょうか」



必要なときにすぐに情報が得られて便利です
青木 昭美さん

「使ってみてメリットだと感じたのは、その場ですぐにニーズに応じてくれる、ということです。あと、親近感の持てる仕組みになっています。AIスピーカーから『おはよう、昭美さん、ニュースをお伝えします』と名前を言われて『おっ』とうれしく思いました。声を掛けると、この地区の天気とその時の気温を教えてくれるので、出掛ける時の服装の参考にしています。今日は一枚多く羽織ろうかしら、とか。情報を自分のものとして生かせる印象です」

テレワークの普及—大事な時間を家族のために、自分のために—

情報通信技術を活用して、場所や時間に捉われない働き方『テレワーク』を普及させる、「鎌倉テレワーク・ライフスタイル研究会」を発足させました。「テレワーク」により、通勤に費やす時間を家族と過ごす時間や趣味に充てられるなど、ワーク・ライフ・バランスの実現や生産性の向上などが期待されます。

鎌倉の優れた環境に「住」と「職」を置き、地域に関わりながら豊かに生活する、新たなライフスタイルの創造を目指しています。

FabCity (ファブシティ) 宣言

市は昨年7月にフランスのパリでFabCity宣言をし、FabLab (ファブラボ)活動の世界的なネットワークに参加することを表明しました。多くの人が気軽にテクノロジーに触れ、身近な課題を解決するために必要なスキルを体得することで、だれもがテクノロジーを活用できる社会の実現を目指しています。

*FabLab…3Dプリンタやレーザーカッターなどの最新のテクノロジー(デジタル工作機械)を使った地域に根ざした実験工房

「鎌倉市 くらしの手続きガイド」

引っ越しや結婚・出産などの手続きについて、簡単な質問に答えるだけで、その人に必要な手続き・書類がわかるサービスです。昨年11月から市ホームページ・スマートフォン上で開始しました(自治体初)。



少子高齢化が進み、AI (人工知能) やIoT (モノのインターネット)、自動走行車などに代表される最新のテクノロジーをフルに活用して、一人一人が快適に暮らせる社会への取り組みが始まっています。

国では、この未来社会のコンセプトを「Society5.0」と名付けており、市でも、人に寄り添うテクノロジーを取り入れながら、住みやすく持続可能なまちを創っていきます。



ソサエティ Society5.0で実現する社会

